【斜里岳の湧き水】

1.湧き水の場所

斜里岳の周辺には多くの湧き水があります。斜里町の上水道も斜里岳の湧き水ですし、来運の湧き水は町外にも有名で、多くの人に利用されています。今回は斜里岳の湧き水について調べてみました。

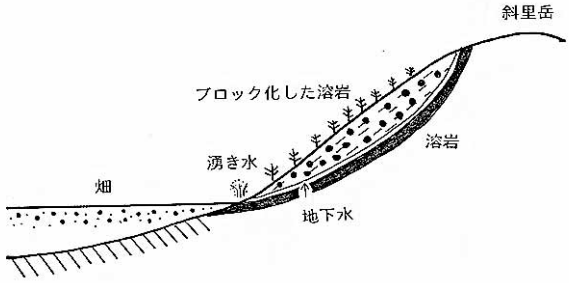
斜里岳の標高が70-80mの場所に湧き水があります。川の始まりもこの標高から始まるのが多いようです。標高70-80mから高い場所は水源かん養保安林として保全され、一部は放牧地として利用されています。この標高より低い場所は畑として利用されています。畑は屈斜路の火山灰地を開墾したものです。また、この境界に越川-富士-豊里-来運の町道が走っています。

斜里岳周辺の湧き水と溶岩・火山灰との関係

2.斜里岳の地形

湧き水がなぜ斜里岳には多いのでしょうか？斜里岳の生い立ちにそのカギがあるようです。斜里岳は海別岳と比較して谷の侵食が激しく、険しい山体をしています。一般に山の形成が古いと浸食作用が進み険しい山の形になります。海別岳は今から約50万年前に生まれ、斜里岳は約28万年前に生まれた火山ですので、斜里岳の方がずっと若い火山になります。浸食作用が進む要因の一つに、溶岩の性質があります。斜里岳は溶岩が薄く、また溶岩の間に火山灰が噴出しているため表面の溶岩の風化が進むと下の層にある火山灰層が姿を現します。火山灰層は風化に弱いため一気に浸食が進みます。斜里岳の「馬の背」や数多くの滝は、人間の骨格にあたる溶岩噴出の通り道が姿を現したものです。これに対して海別岳は厚い溶岩を噴出した火山ですので浸食に強く、現在でも噴出時の山体を残しています。

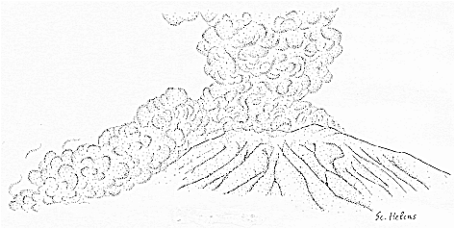
このように浸食作用が進みやすい斜里岳では、薄い溶岩が冬の厳しい寒さでブロック化し、表面を覆っています。そのため斜里岳に降った雨水はブロック化した岩石の間にしみこみ、地下水となってブロック化した岩石の末端部（標高70～80m）に湧水となって地表に姿を現します。



湧き水と斜里岳の地質断面

3.屈斜路の火砕流

斜里の畑を作る屈斜路火山の火砕流は12～3万年の間に4回、現在の屈斜路湖から北方向に斜里岳の西側の低地を通り、斜里方面へと流れました。火砕流は雲仙普賢岳で多数の死者を出したように地面に沿って高温で流れ下ります。そのため、斜里岳の北側は火砕流の影になり、また標高の高い場所では火山灰は少量だったようです。一方、斜里岳西側にあたる清里側は火砕流の通り道のため火山灰が厚く積もっています。そのため、清里側は標高の高い位置まで火山灰が積もり、現在は畑として利用されています。



地表を這う火砕流の噴煙

4.湧き水を大事にしましょう

自然環境に恵まれた斜里岳の湧き水は斜里町民の生活水であり、孵化場や養魚場の大切な水源でもあります。また、バイカモなどの清水を好む植物を育んでいます。

今、各地の地下水が生活排水、糞尿、化学肥料、農薬などに汚染され、大きな社会問題となっています。清里側に比べ、上流に畑を持たない斜里の湧き水は恵まれた環境にあります。斜里と清里の境界近くに位置する来運の湧き水について、我々は注意を払い、そして自然環境を守っていく必要があるでしょう。

（合地信生）

～事務局より～

今回は、会費納入願い・銀行引き落とし連絡と総会報告書を同封しました。ご覧ください。

発行　斜里町立知床博物館協力会　2003.5.15
099-4113
北海道斜里郡斜里町本町49　斜里町立知床博物館内
TEL:01522-3-1256/FAX: 3-1257
http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/